

子どもたちの健やかな体づくりと教育



横浜市教育委員会事務局人権健康教育部

健康教育課長 植村 一人

横浜市教育委員会は、平成 30 年 2 月に、2030 年頃の社会のあり方を見据え、新学習指導要領の考え方を踏まえながら、これからの概ね 10 年を展望した新たなビジョン「横浜教育ビジョン 2030」を策定しました。

横浜の教育が目指す人づくりは「自ら学び 社会とつながり とともに未来を創る人」でありその育成を目指し、子どもに身に付けてほしい力を五つの視点、「知・徳・体・公・開」で表しています。

それぞれの視点は、

【知】… 生きて はたらく知 【徳】… 豊かな心 【体】… 健やかな体

【公】… 公共心と 社会参画 【開】… 未来を開く志

となります。

このうち健康教育にかかわる部分【体】は、「自ら健康を保持増進しようとする態度」などを目標としています。

例えば、企業と連携した食育セミナーを開催したり、1 校 1 実践運動を進めたりすることで、望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身に付け、子どもが自分の心身の健康を保持増進する態度を育成しています。

また、むし歯・歯周疾患予防に関しては、学校歯科医による指導、学校保健会や歯科医師会の歯科衛生士による巡回歯科指導に加え、教職員用の指導資料による歯科保健指導も実施しています。

医療的ケア児の一般校への支援を横浜市医師会・訪問看護ステーションのご協力を得てモデル事業として実施しています。

そのほか、現代的な課題である薬物乱用等への対策として、横浜市薬剤師会の協力を得て「薬物乱用防止教育横浜型プログラム」や「飲酒防止教育横浜型プログラム」といった横浜市独自の教材を作成し、健康教育を推進しています。

子どもたちの健康のためには、保護者の皆様との連携、学校医、学校歯科医、学校薬剤師のご協力はもちろん、地域の医療、福祉の支援が不可欠です。

いつまでも元気に自分らしい毎日が過ごせるようにするため、子どもたちが自分のできるところから健康づくりを楽しむよう今後も取組を進めています。お力添えをお願いいたします。